

日本の常識・世界の非常識を打破するには —— 原点に戻り、再度思考

(株)NBL 研究所
西野義則

- ① **常識の世界**： 起業化で技術開発に成功した資金不足企業を乗っ取る HITZ は、株式 51% を取得時からあらゆる乗っ取り策を講じて、乗っ取り成功したら、中身を取り出して、起業家、投資家を切捨てして、100% 乗っ取る。
これが、法的に許される国であることが証明されるかを今回、公開裁判訴訟を提案する。
法的に許容する国なら、技術開発、企業家は育たないことを証明することになる。
コンプライアンスなど、やさしい話ではありません。
合法的な泥棒社会となっていることの例を示します。
- ② **学者・常識人**： 日本的高级文化人は、本当なのか？
中国の社会を批判するが、中国ではアメリカンドリームが多くある。
これは、なんなのか？
ひょっとすると、日本の文化人が問題？、社会？、国民？マスコミ？が問題なのか。
外国のメディア（中国など）をよく批判するが、NHK はどこまで違うのか？
ひょっとして、同じまたは、仮面をもった文化人ではないのか？
例： スポンサー企業、市場上場企業、大企業に関する批判は、スキャンダルは、日本のマスメディアは触らないのが風習。
それは、自分たちも同じ立場であり、無知から間違いが多いため権威を尊重する立場にある。
社会秩序の維持が常識の世界である。
これは、どこかの独裁政権と 50 歩 100 歩ではないだろうか？
権威とは、この国の構成する一般人が納得する中道を支える文化。
後は、面白おかしく、評論する人が異端児で切れ者扱い。
- ③ **社会を改善するには、** 実は、本来の権威復活が必要。
それには、政治家、高級官僚、雇われ権威者 と無能な国民とお祭り好きな国民集団の社会（各種群れの利用される集団心理）
これを、機能集団社会に変えれば、やり方が少し間違っても中国並みの発展と活力が復活する。
すなわち、高度成長期、明治維新、. 田中角栄、など英雄が育つ土壌

つくりが必要ではないか？

現在は、エセ文化人が常識の社会。

機能優先の少し弊害があっても、弱者救済の再評価などシステムを見直し、

本来の人間に必要な本能と闘争心を完全に破壊するような社会、

うそばかりを述べるエセ学者・文化人、その代表が厚生年金制度。

機能性社会にするには、今最も優れているといわれる制度は、

大統領制度、直接選挙で選ばれるトップが、国の舵をとる。

そうすれば、機能性重視の社会構造となるであろう。

アメリカ社会のよいところを勉強したらどうか？

日本人の恥、世界の非常識、・・・これを解決する社会を目だそう。

答えは、文化人は常識を重んじよ・・・である。